

## 2. 火山の概況

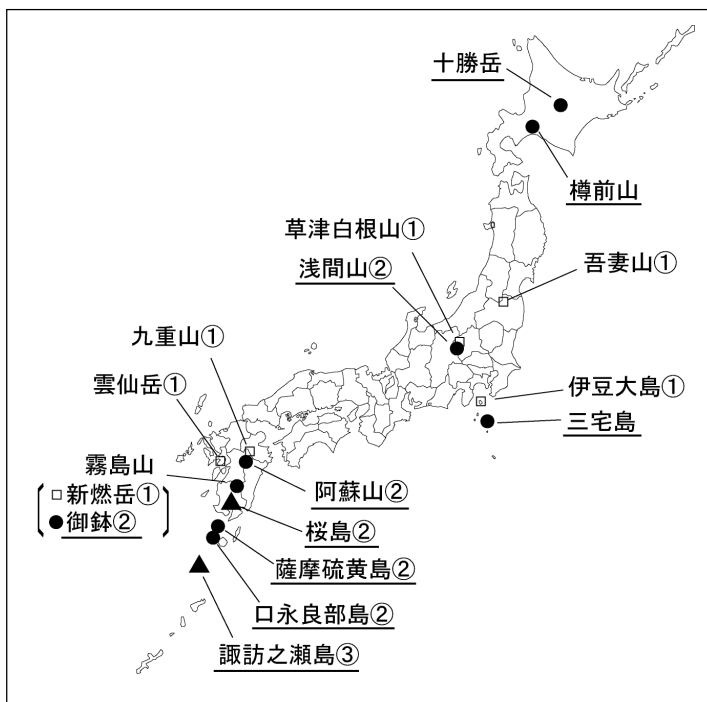
(平成17年9月23日～平成17年9月29日)

### 【噴火が観測された火山】

- ▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動(レベル2)] : ごく小規模な噴火は観測されたが、爆発的噴火等\*は観測されなかった。  
(\*: 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。)
- ▲ 諏訪之瀬島 [活発な状況(レベル3)] : 23日に噴火があった。

### 【活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化があった火山】

- 十勝岳 [やや活発な状況] : 噴煙活動が活発で、62-2火口の高温状態が続いていると推定される。
- 樽前山 [やや活発な状況] : 噴煙の状況に変化はなく、A火口及びB噴気孔群の高温状態が続いていると推定される。
- 浅間山 [やや活発な状況(レベル2)] : 山頂火口内の高温状態、火山性地震及び微動のやや多い状態が続いている。
- 三宅島 [やや活発な状況] : 多量の火山ガスの放出が続いている。
- 阿蘇山 [やや活発な状況(レベル2)] : 中岳第一火口内では、熱的活動のやや活発な状態が続いている。
- 霧島山(御鉢) [やや活発な状況(レベル2)] : 今期間の活動は低調であったが、火山活動はやや活発な状態が続いている。
- 薩摩硫黄島 [やや活発な状況(レベル2)] : 今期間の活動は低調であったが、火山活動はやや活発な状態が続いている。
- 口永良部島 [やや活発な状況(レベル2)] : 今期間の活動はやや低調であったが、火山活動はやや活発な状態が続いている。



注1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

#### 注2 記号の意味

- ▲ : 噴火が観測された火山
- : 活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化があった火山
- ◆ : 前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山
- ◇ : その他記事を掲載した火山
- : 記事を掲載していないレベル対象火山
- ①②等の丸付き数字 : 火山活動度レベル

注3 記事は、▲、●及び◆(注2参照)に該当する火山について掲載する。その他の火山については、特記事項のある場合に掲載する。

図1 各火山の今期間の火山活動度レベル及び記事を掲載した火山(火山名に下線)

## 【各火山の活動解説】

各記号の意味は次のとおり。▲：噴火が観測された火山。●：活動が活発もしくはやや活発な状態にあるか、観測データ等に変化があった火山。◆：前期間まで▲や●で掲載し、その後の状況等を掲載した火山。◇：その他記事を掲載した火山。

### ● 十勝岳 [やや活発な状況]

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で推移した。噴煙の活動に特に変化は見られていないことから、同火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていたと推定される。

### ● 樽前山 [やや活発な状況]

今期間、A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特に変化はみられていないことから、これらの火口の熱的な活動にも大きな変化はなく、依然として高温の状態が続いていると推定される。

### ● 浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

山頂火口からは白色噴煙が連続して噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね 200m で推移した。また、山麓の高感度カメラ<sup>1)</sup> で捉えられる程度の微弱な火映が 26 日に観測されており、火口内は依然として高温状態が続いている。

火山性地震及び火山性微動の回数はやや多い状態が続いており、期間中それぞれ 1 日あたり 20～37 回、0～4 回であった。

1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。

### ● 三宅島 [やや活発な状況]

山頂火口からは白色噴煙が連続しており、噴煙高度は火口縁上概ね 400m で推移した。28 日に上空から行った火山ガス観測<sup>2)</sup> では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 3,800～7,100 トン（前回は 9 月 15 日 2,500～3,500 トン）で、依然として多量の火山ガスの放出が続いている。また、三宅村によると山麓では時々高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

期間中、火山性地震の回数は少なく、1 日あたり 0～8 回であった。火山性微動は観測されなかった。

2) 海上保安庁の協力による。

### ● 阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

中岳第一火口（以下、火口）内では熱的活動のやや活発な状態が続いている。

29 日に行った現地観測では、火口内の湯だまり<sup>3)</sup> 量は約 6 割と変化はなかった。湯だまりの表面温度は 70℃（赤外放射温度計<sup>4)</sup> による）と依然として高い状態であった（前期間 67℃）。湯だまり内では土砂噴出は観測されず、引き続き噴湯現象が観測された。

火山性連続微動は振幅の小さい状態が続いている。

孤立型微動の発生状況に変化はなく（今期間 1 日あたり 59～89 回、前期間は 43～87 回で推移）、火山性地震は比較的少ない状態で経過した。噴煙活動、地殻変動等その他の観測データには特段の変化はなかった。

3) 湯だまり：活動静穏期中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約 50～60℃ の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

4) 赤外放射温度計は、物体が放射する赤外線を検知して温度を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

### ● 霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

今期間の活動は低調であったが、火山活動はやや活発な状態が続いている。

### ▲ 桜島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

期間中、ごく小規模な噴火は観測されたが、爆発的噴火等<sup>5)</sup> は観測されなかった（前期間は 19 日に

噴火<sup>5)</sup>を観測)。24日にごく小規模な噴火による灰白色の噴煙が火口縁上400mまで上がるのが観測された。期間中、鹿児島地方気象台(南岳の西南西約11km)では降灰は観測されなかった(前期間もなし)。地震活動及び地殻変動には特段の変化はなかった。

5) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

● **薩摩硫黄島** [やや活発な状況(レベル2)]

今期間の活動は低調であったが、火山活動はやや活発な状態が続いている。

● **口永良部島** [やや活発な状況(レベル2)]

火山性地震はやや少ない状態が続いている(今期間1日あたり2~11回、前期間は6~10回で推移)。今期間の活動はやや低調であったが、火山活動はやや活発な状態が続いている。

▲ **諏訪之瀬島** [活発な状況(レベル3)]

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、23日に火山灰を含む噴煙が火口縁上1,000mまで上がり、集落(御岳の南南西約4km)で降灰が確認された。

表1 最近1か月に記事を掲載した火山及び各火山のレベル

概況番号	対象期間	十勝岳	樽前山	吾妻山		草津白根山		浅間山		伊豆東部火山群	伊豆大島		三宅島	福徳岡ノ場	九重山	阿蘇山		雲仙岳		霧島山(新燃岳)		霧島山(御鉢)		桜島		薩摩硫黄島		口永良部島		諏訪之瀬島	
				記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル		記号	レベル				記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル	記号	レベル
39	9/23-9/29	●	●	①	①	●	②				①	●			①	●	②	①	①	●	②	▲	②	●	②	●	②	●	②	▲	③
38	9/16-9/22	●	●	①	①	●	②				①	●			①	●	②	①	①	●	②	▲	②	●	②	●	②	●	②	▲	③
37	9/9-9/15	●	●	①	①	●	②				①	●	●		①	●	②	①	①	●	②	●	②	●	②	●	②	●	②	▲	③
36	9/2-9/8	●	●	①	①	●	②	◆			①	●			①	●	②	①	①	●	②	▲	②	●	②	●	②	●	②	▲	③
35	8/26-9/1	●	●	①	①	●	②	●			①	●			①	●	②	①	①	●	②	▲	②	●	②	●	②	●	②	▲	③

表2 火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
三宅島	火山観測情報 第511~517号 (1日1回発表)	23~29日 16:30	前日16時~当日16時の活動状況、及び上空の風の予想。